

役職等の引継ぎがあった場合は、この冊子も引き継いでください。

# 私たちのまちの防災活動

～防災活動事例集～



相模原市

# 目次

事例集の使い方・・ 1

## 1. 被害への対応・・ 3

- 事例 1-1 相模湖地区総合防災訓練 発災対応型防災訓練（相模湖地区）
- 事例 1-2 可搬式消防ポンプによる放水訓練（新磯地区）
- 事例 1-3 丸崎自治会自主防災隊 防災訓練（上溝地区）
- 事例 1-4 大野台第一自治会自主防災隊 防災訓練（大野中地区）
- 事例 1-5 光が丘地区版 J-DAG の実施（光が丘地区）

## 2. 避難誘導・安否確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- 事例 2-1 大規模団地住民の震災避難行動訓練（相武台地区）
- 事例 2-2 黄色い小旗による安否確認支援事業（津久井地区）
- 事例 2-3 リリエンハイム防災会 防災訓練（大野中地区）
- 事例 2-4 小松自治会自主防災隊 防災訓練（城山地区）
- 事例 2-5 デジタル地域防災無線運用による防災訓練（相模台地区）
- 事例 2-6 中央地区連合自主防災隊 無線通信訓練（中央地区）

## 3. 避難所の開設・運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

- 事例 3-1 市総合防災訓練 地域会場訓練（城山地区）
- 事例 3-2 共和小学校 避難所運営訓練（大野北地区）
- 事例 3-3 地区合同防災訓練（大沢地区）
- 事例 3-4 情報伝達訓練（藤野地区）
- 事例 3-5 避難所通信訓練（橋本地区）

事例 3-6	<u>田名地区・中央区役所情報伝達連携訓練（田名地区）</u>
事例 3-7	<u>清新地区・中央区役所情報伝達連携訓練（清新地区）</u>
事例 3-8	<u>土砂災害対策訓練（藤野地区）</u>
事例 3-9	<u>女性の視点に立った避難所の運営訓練（大野中地区）</u>
事例 3-10	<u>鵜野森中学校避難所開設・運営訓練（大野中地区）</u>
事例 3-11	<u>感染症対策を加えた避難所立ち上げ訓練（光が丘地区）</u>
事例 3-12	<u>向陽小学校 避難所運営訓練（小山地区）</u>
事例 3-13	<u>谷口中学校避難所運営訓練（大野南地区）</u>
事例 3-14	<u>LPガスの提供を受けた炊出し訓練（小山地区）</u>
事例 3-15	<u>地区と小学校給食室の連携による炊出し訓練（清新地区）</u>
事例 3-16	<u>中央小学校避難所倉庫の整理（中央地区）</u>

#### 4. 防災に関する普及啓発活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

事例 4-1	<u>防災講演会（津久井地区）</u>
事例 4-2	<u>防災啓発カレンダー（津久井地区）</u>
事例 4-3	<u>弥栄中学校避難所運営訓練（中央地区）</u>
事例 4-4	<u>橋本地区避難所運営協議会連絡会（橋本地区）</u>
事例 4-5	<u>城山地区内避難所運営協議会等打合せ会（城山地区）</u>
事例 4-6	<u>独自の避難所運営マニュアルの作成（橋本地区）</u>
事例 4-7	<u>ハザードマップと防災ガイドブックの読み合せ会（新磯地区）</u>

#### 【参考】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

- 参考 1 熊本地震に伴う派遣職員の体験から
- 参考 2 さまざまな種類の訓練・取組
- 参考 3 相模原市からのお知らせ
- 参考 4 さがみはら防災マイスター制度について

## 事例集の使い方

この防災活動事例集には、平成28年度から相模原市内で実施された防災に関する取組について、取組の概要、実施団体が工夫したポイント、準備をする際に必要なことを掲載しています。

「何を訓練すればいいのか悩んでしまう」

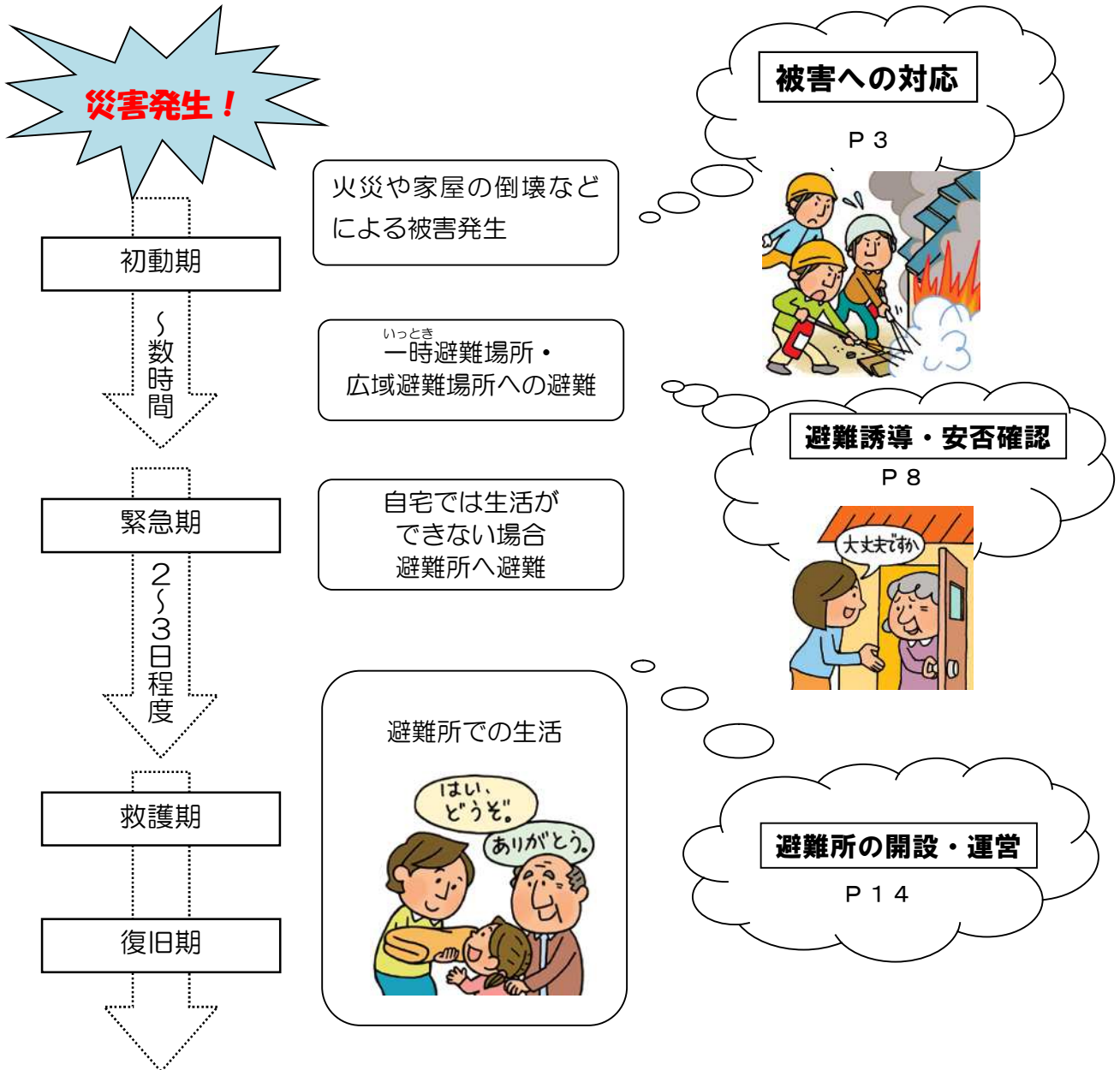
「例年と違う訓練をやってみたい」

このような問題を解決するため、本事例集で他の団体の取組を知り、防災活動に活用いただければ幸いです。

なお、本事例集には平成28年4月に発生した熊本地震において被災地へ派遣した本市職員の意見なども掲載いたしました。併せてご参考にしてください。

※本事例集に掲載されているものは一例であり、この他にも様々な取組が行われていると思います。先進的な取組については、追加で掲載させていただきますので、ぜひご紹介ください。

# 災害に備えるためにはどのような訓練をすればいいの？



## 災害に備えて ～平常時の取組～

災害発生時にどのようなことが起こるのか、どのような行動をすればよいのかを確認することが重要！

**防災に関する普及啓発活動** P 3 0

# 1 被害への対応

## 事例 1-1 相模湖地区総合防災訓練 発災対応型防災訓練（相模湖地区）

相模湖地区連合自主防災組織が実施した相模湖地区総合防災訓練では、訓練項目の1つとして、各自治会が中心となった「発災対応型訓練」を実施し、参加者は発災時の様々な状況を体験しました。

### 【取組の目的】

災害（地震による土砂崩落災害等）に備え、単位自主防災組織及び避難所運営協議会との連携のもと、発災対応型訓練、予知対応型訓練及び避難所運営訓練を実施することで、地域防災力の向上を図ることを目的とする。

### 【主な取組内容】

- ・ さがみはら 1 分間行動訓練
- ・ 安否確認、避難所誘導訓練
- ・ 急傾斜地崩壊危険区域における事前避難対策訓練
- ・ 情報伝達訓練
- ・ 避難所運営訓練
- ・ 発災対応型訓練（初期消火訓練、救護訓練、担架訓練、煙体験、AED使用訓練、救助工具使用訓練、起震車体験など）

### 【参加人数】

535人

## ここがポイント！

1. 発災対応型訓練は、各自治会が内容を決定して実施しました。
2. 「起震車体験が好評だった」「資機材をもっと実際に使用したかった」といった感想を参加者から得ることができました。



### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

#### 必要なモノ

※起震車、その他消耗品など「発災対応型防災訓練」に必要なものは消防局から提供された。  
（お近くの消防署で申請できます【P44参照】）

#### 必要なコト

自治会役員会議にて訓練内容の決定（自治会役員会議には各避難所運営協議会会長、各避難所担当市職員及び相模原市消防団相模湖方面隊に出席を依頼）

消防署等関係行政機関との調整（お近くの消防署でご相談できます【P44参照】）

【問い合わせ先：相模湖まちづくりセンター（042-684-3212）】

## 事例 1 - 2

### 可搬式消防ポンプによる放水訓練（新磯地区）

下磯部上の原自主防災隊では、可搬式消防ポンプによる放水訓練を通じて、災害時に防火資機材を有効に活用できるように使い方等の確認を行いました。

#### 【取組の目的】

自治会役員の一斉に伴い、可搬式消防ポンプの操作訓練（配管、エンジン始動、放水）を通じて、災害時の心構え、具体的な資機材の使用方法を身につけることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 可搬式消防ポンプの操作訓練（配管、エンジン始動、放水）
- ・ 地元消防団による消火栓接続及び放水に関する講習

#### 【参加人数】

約30人

#### ここがポイント！

1. 実際に運転を体験することで、今後の災害時に備え、どのような心構えでいたら良いかを体験的に身に付けることができました。
2. 地元の消防署分署、消防団、防災専門員と事前協議を行い、実際に指導を受け、訓練を進める中で、地域内での交流の輪を広げることができました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

可搬式消防ポンプ、燃料、エンジンオイル、消火栓マップ（消防新磯分署より提供）、消火栓からポンプまでの配管（今回は消防団から簡易水槽を借用）

##### 必要なコト

訓練会場へ事前に使用許諾を得ること、警察への消火栓使用許可申請、可搬消火ポンプの事前始動確認、エンジンの定期的な始業点検及び試運転

【問い合わせ先：新磯まちづくりセンター（046-251-0014）】

## 事例 1 - 3

### 丸崎自治会自主防災隊 防災訓練（上溝地区）

丸崎自治会自主防災隊が実施した防災訓練では、訓練項目の1つとして、地震による火災が発生することを想定して、可搬式消防ポンプを用いた訓練等を行いました。

#### 【取組の目的】

可搬式消防ポンプの使用やけが人の運搬等の訓練をすることで、男女等の区別なく自主防災組織全体の防災力の向上を図ることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 可搬式消防ポンプの使用訓練
- ・ けが人及び災害弱者の運搬訓練（車椅子、担架、組立式リヤカーの使用）
- ・ 運営本部の立ち上げ訓練（テント設営等）
- ・ 炊き出し訓練

#### 【参加人数】

40人

### ここがポイント！

1. 資機材の使用方法を男女等の区別なく把握し、いざというときに組織の誰でも使えるようにすることを目指しました。
2. 新型コロナウイルスの感染対策として、非接触式消毒液噴出装置や非接触型体温計の使用、参加者のマスク、手袋の着用を徹底しました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

可搬式消防ポンプ、燃料、エンジンオイル、貯水タンク、放水的、アルミ製組み立て式リヤカー、消毒液、マスク、体温計、受け入れ名簿、使用する資機材のリスト

##### 必要なコト

訓練前に各訓練での役割分担の確認

【問い合わせ先：上溝まちづくりセンター（042-762-0079）】



## 事例 1 - 4

## 大野台第一自治会自主防災隊 防災訓練（大野中地区）

大野台第一自治会では、震度6弱の地震が発生したという想定のもと、本部隊と地区隊による情報伝達訓練、安否訓練、個別訓練及び要援護者避難誘導訓練を行いました。また、訓練開始時に「ひばり放送」による情報確認を実施しました。

### 【取組の目的】

自治会内が1区から15区に区割りされているため、各区に地区隊を設置し、本部隊との連携を強化するとともに、民生・児童委員との支援体制の連携を確立することを目的とする。

### 【主な取組内容】

- ・ PHS による情報確認
- ・ 安否確認
- ・ 2階からの救出搬送、車椅子の操作等の訓練
- ・ 消火栓、小型ポンプによる放水訓練
- ・ 福祉施設への要援護者の避難誘導訓練

### 【参加人数】

271人（うち反省会出席者164人）

### ここがポイント！

1. PHS を用いて、本部隊と地区隊間で被災の有無や避難経路の確認のための情報伝達を行うなかで、実際の災害時に情報伝達がスムーズに行えるよう伝達方法等の確認をしました。
2. 参加者全員を対象としての反省会を実施し、訓練内容や目的への理解をより深めることができました。



### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

#### 必要なモノ

防災ベスト、ヘルメット、情報伝達用 PHS、移動時の誘導旗、各訓練で使用する資機材（車椅子は地区社協から、水消火器・担架・バール・ジャッキ等は消防から借用）

#### 必要なコト

ひばり放送の依頼、消防・地区社協への協力依頼、民生・児童委員との事前打合せ

※現在、PHS サービスは終了しているため、同様の訓練を行う際は、代替の通信機器が必要になります。

【問い合わせ先：大野中まちづくりセンター（042-741-6695）】

## 事例 1 - 5

### 光が丘地区版 J-DAG の実施（光が丘地区）

光が丘地区自治会連合会や独立自主防災隊等が合同で行った本訓練では、光が丘地区で災害が発生した際の行動を「J-DAG」を基に策定し、地区の防災隊が実際にどう行動すべきかを確認しました。

#### 【取組の目的】

既存の J-DAG（発災直後行動実践訓練ゲーム）を基にした「光が丘版 J-DAG」を用いてシミュレーションすることで、大規模地震の発災時に、地区の防災隊が実際にどう行動すべきかを確認することを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 地区連防災組織本部の設置と無線訓練
- ・ 各自治会防災隊本部の設置と無線訓練
- ・ 各自治会の一時避難場所の設置と無線訓練
- ・ 最低 1 つの防災活動を実施（救助・初期消火・搬送・黄色い小旗確認などから選択）

#### 【参加人数】

420 人程度（1 防災隊 5 人～30 人程度で 22 防災隊、地区連本部防災隊 5 人）

### ここがポイント！

1. 事前に各防災隊の訓練内容（予定）を提出してもらい、かつ各自治会の防災隊へ事前説明会を実施することで、当日の訓練を円滑に行うことができました。
2. 訓練終了後に、「訓練内容（結果）」「良かった点」「改善すべき点」を記入した訓練結果報告書を提出してもらって、各自治会防災隊の「現状」への理解度を高め、実戦対応力の向上を図りました。



#### 📌 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

デジタル簡易無線機（充電・チャンネル設定・アンテナ）、各地区防災隊の現場訓練に必要な資機材

##### 必要なコト

指示書（無線チャンネル割り当て表・当日のタイムスケジュール表など含む）の作成、事前説明会の実施、「訓練内容（予定）」の事前提出と「訓練結果報告書」の事後提出を各自治会防災隊に依頼

【問い合わせ先：中央 6 地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

## 2 避難誘導・安否確認

### 事例 2-1 大規模団地住民の震災避難行動訓練（相武台地区）

相武台グリーンパーク災害対策合同会議が主催した訓練では、一時避難場所への避難、安否確認、情報収集の手法の検証を行いました。

#### 【取組の目的】

地震が発生した際の行動を実際に行うことで、防災体制の習熟を図る。

#### 【主な取組内容】

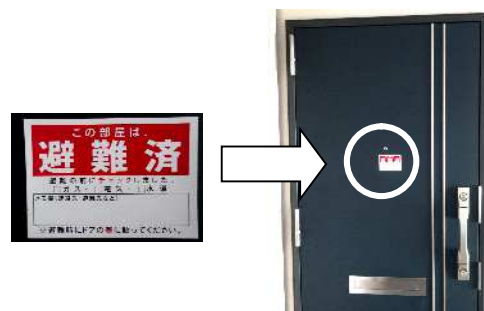
- ・ 新たに定めた一時避難場所への避難訓練
- ・ 安否確認、情報収集の手法の検証

#### 【参加人数】

約 1, 500人

### ここがポイント！

1. 相武台グリーンパーク災害対策合同会議では、地域で一箇所のみである一時避難場所に住民が集まると混乱を招くおそれがあると考え、新たに街区ごとの一時避難場所を定めました。
2. 訓練当日は、住民による新しい一時避難場所への避難や、マグネットシールを使った安否確認、一時避難場所における情報収集と地域全体での情報集約を実際に行い、防災体制の習熟を図りました。



住民は避難完了時にマグネットシールをドアに貼り付け、自主防災組織の安否確認担当が記録する。  
(普段はドア内側に貼り付けておく)

#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

住民名簿、安否確認・被害カード、街区・棟・階段班標識カード、防災マニュアル、安否確認札、鉛筆、メモ用紙など（相武台グリーンパークでは防災対策の一環として各階段下郵便BOXの下にポストを設置し、収納している）

##### 必要なコト

地域住民への訓練実施の周知・参加の呼びかけ

【問い合わせ先：相武台まちづくりセンター（046-254-3755）】

## 事例 2-2

## 黄色い小旗による安否確認支援事業（津久井地区）

津久井地区連合自主防災組織では、希望する単位自主防災組織に対して「黄色い小旗」や「安否確認事業ステッカー」、啓発用のパンフレット及び自主防災組織用の腕章の配布などを行い、取組の支援を行っています。

### 【取組の目的】

安否確認を短時間で行う仕組みをつくとともに、日ごろから災害に対する備えと「自助」「共助」を啓発する。

### 【主な取組内容】

- ・ 黄色い小旗や安否確認事業ステッカーの配布
- ・ 啓発用パンフレットや自主防災組織用の腕章の配布

### 【対象世帯】

7, 269世帯

## ここがポイント！

地区内の自主防災組織において、次の手順で安否確認を行うことを定めることができました。

### ※安否確認の流れ

- ① 対象の家庭は外から確認できる場所にステッカーを貼り、災害時に安全確保ができた際に小旗を掲げる。
- ② ステッカーが貼ってあるが、小旗が掲出されていない場合は安全確保ができていないということになる。



【問い合わせ先：津久井まちづくりセンター（042-780-1403）】

## 事例 2-3

## リリエンハイム防災会 防災訓練（大野中地区）

リリエンハイム防災会が実施した防災訓練では、震度5弱以上の災害が発生したことを想定し、役員及びサポーターによる安否確認等の訓練を行いました。

### 【取組の目的】

マンションの住人256世帯を対象に、役員及びサポーターによる安否確認と発災時の初期行動の確認等を行いマンション住人の防災力を強化することを目的とする。

### 【主な取組内容】

- ・ 玄関に貼る「『無事です』シート」の事前配付
- ・ 役員及びサポーターによる安否確認
- ・ 登録済みの要支援者へのサポート訓練
- ・ 簡易トイレ体験

### 【参加人数】

256人

## ここがポイント！

1. 役員だけが訓練主体となるのではなく、あらかじめサポーターへの登録をマンション住人に依頼することで、発災時の人手を確保することができます。
2. あらかじめ一人暮らしの高齢者や障害者等の要支援者をリストアップしておくことで、避難介助等のサポートを円滑に行うことができます。



### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

#### 必要なモノ

マグネット式の「無事です」シート

#### 必要なコト

サポーターの事前募集、要支援者の事前募集、訓練参加者への「無事です」シートの配付

【問い合わせ先：大野中まちづくりセンター（042-741-6695）】

## 事例 2 - 4

### 小松自治会自主防災隊 防災訓練（城山地区）

小松自治会では、市内で震度5強以上の地震が発生し、甚大な被害が発生したことを想定し、地区内の安否確認訓練を実施しました。

#### 【取組の目的】

災害(地震による土砂崩落災害等)に備え、単位自主防災組織及び避難所運営協議会との連携のもと、発災対応型訓練、予知対応型訓練及び避難所運営訓練を実施することで、地域防災力の向上を図ることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 隊員による各家庭の安否確認用フラッグ「無事です」(以下「フラッグ」という。)の掲出の有無を3人1組の5班編成で巡回し確認
  - ・ フラッグの掲出がない家庭に訪問し、状況を確認するとともに防災意識の向上を図る
  - ・ 各家庭に防災啓発物品(災害伝言ダイヤルパンフレット)の配布
  - ・ 備蓄品の点検・補充
- ※その他、年間を通して、城山湖周辺の不法投棄防止の防犯カメラ周辺の巡回パトロールを実施し、地区内の防災・防犯活動を実施。

#### 【参加世帯数】

144世帯

#### ここがポイント！

1. フラッグの掲出率は、年々増加傾向で、今回は80%を超える掲出率となり、防災意識の向上が図られています。
2. フラッグの未掲出世帯を回ることで、災害時の要援護者等の把握を行うことができます。
3. フェイスシールドを使い、感染症対策を十分に行った上で訓練を行いました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

フラッグ、パンフレット、ヘルメット、フェイスシールド(感染症対策)

##### 必要なコト

消防署・消防団との調整、各家庭への事前周知



【問い合わせ先：城山まちづくりセンター（042-783-8117）】

## 事例 2-5

### デジタル地域防災無線運用による防災訓練（相模台地区）

青葉自治会及び松葉会が実施した防災訓練では、訓練項目の1つとして、デジタル地域防災無線の設置・コールサインによる情報伝達運用訓練を実施し、参加者は発災時の情報伝達方法及び通信範囲の確認を行いました。

#### 【取組の目的】

災害発生による大停電を想定し、避難場所・公園・各自治会内ブロック間での情報伝達方法、及び通信範囲の確認をすることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ デジタル地域防災無線のアンテナ設置訓練
- ・ 本部用無線機の DC 電圧昇圧配線接続訓練
- ・ 子機による各指定場所情報伝達訓練
- ・ 無線機を車載し移動中による情報伝達訓練

#### 【参加人数】

46人

#### ここがポイント！

1. 自治会内でデジタル地域防災無線の配備を実施したうえで訓練を行いました。
2. 情報の錯綜を防ぎ、正確さとスピードを兼ね備えた情報伝達方法を確認するために行いました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

デジタル地域防災無線、アンテナ、バッテリー、車載アンテナ、電源ケーブル、運用登録免状

##### 必要なコト

訓練にあたって関東総合通信局に「無線局登録状」の申請・許可が必要

【問い合わせ先：相模台まちづくりセンター（042-744-1609）】

この訓練では、無線機を配備している自治会との被害状況などの情報共有を行いました。

**【取組の目的】**

事務局員が現地に不在の状況下で、各自治会が会場設営・無線通信等による被害状況報告などを行えるか、また、その際の課題は何かを確認することを目的とする。

**【主な取組内容】**

- ・ 「中央地区連合自主防災隊活動手引き」を用いた会場設営
- ・ 無線を保有している自治会との通信訓練
- ・ 無線通信等をもとにした被害状況の記録
- ・ 地区連のグループLINEによる動画送信訓練

※無線を保有していない自治会については、口頭による報告訓練を行いました。

**【参加人数】**

38人

**ここがポイント！**

1. 事務局が参加せず、「手引き」のみを会議室に設置した状況から、情報収集・情報共有ができるかを確認することを目的としていましたが、会場設営から無線交信まで非常に短時間で完了することができました。
2. 訓練後にミーティングを行い、課題点を抽出することができました。

**📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト****必要なモノ**

情報伝達用の無線機、地区連合自主防災隊独自の活動手引き

**必要なコト**

活動手引きの内容の充実、各自治会への無線機の配備

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】



## 3 避難所の開設・運営

### 事例 3-1

### 市総合防災訓練 地域会場訓練（城山地区）

城山地区連合自主防災隊と関係機関の連携により、平成28年度相模原市総合防災訓練の地域会場訓練の一環として、避難所運営を中心とした訓練を実施しました。

#### 【取組の目的】

地域における「自助」「共助」の意識向上と  
地域防災力の強化を図ること。

#### 【主な取組内容】

- ・ 救援物資受入訓練
- ・ 避難所体験訓練
- ・ 給水、炊き出し訓練 ほか



#### ここがポイント！

1. 災害が実際に発生したことを想定して、訓練参加者を避難所運営マニュアルの班と同じような役割で班に分けました。
2. 訓練参加者自身がどの班に属しているかを分かり易くするため、カラーリボンやカラーテープを使って、各班を色分けしました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

マニュアル、ダンボール（間仕切り用）、敷きシート、給水袋、炊き出し用調理器具・食器、ゼッケン・リボン

##### 必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）  
救援物資・搬送用車両の手配、消防団や消防署など防災関連機関への指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P 44 参照】）

【問い合わせ先：城山まちづくりセンター（042-783-8117）】

## 事例 3-2

### 共和小学校 避難所運営訓練（大野北地区）

共和小学校避難所運営協議会は、災害が発生し、避難者が体育館に集まったという想定で、避難所立ち上げから運営に至るまでの訓練を実施しました。

#### 【取組の目的】

避難所を立ち上げる際の手順と役割を確認することによって、実際に災害が発生したときに、混乱しないで対応できるようにすること。

#### 【主な取組内容】

- ・ 校内施設の確認（備蓄倉庫、給水タンク、ろ水機等）
- ・ 倉庫から体育館への物品搬送訓練
- ・ 運営本部の設置、避難者の受け入れ訓練 ほか



#### ここがポイント！

1. 9つある作業班を3つのグループに分けて、避難所運営マニュアルの「まずやりましょう」の項目を重点的に確認し、避難所立ち上げ期におけるスムーズな対応を目指しました。
2. 体育館に敷きシートを並べて、避難者の居住スペースがどれくらい確保できるか確認をしました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

展示用マンホールトイレ、避難者名簿（避難所受付用）、敷きシート

##### 必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）

校内施設の見学について学校と調整・鍵等の用意

展示用機器の搬送及び設置の手配、説明要員の確保

【問い合わせ先：大野北まちづくりセンター（042-752-2023）】

### 事例 3 - 3

## 地区合同防災訓練（大沢地区）

大沢地区連合防災隊と避難所、消防団、まちづくりセンターによる合同の防災訓練を実施しました。大沢地区内の複数の避難所で訓練を実施し、無線機等を有効に活用することにより、災害時に近い状況で訓練を行うことができました。

#### 【取組の目的】

大震災により被害を受けたことを想定し、一時避難場所から避難所への移動訓練と避難所各班の訓練を行う。

#### 【主な取組内容】

- ・ 一時避難場所から避難所への移動訓練
- ・ 防災用無線機を活用した通信訓練
- ・ 起震車や煙体験ハウスを使用した体験型の訓練 ほか



### ここがポイント！

1. 大沢地区内の6箇所の避難所で訓練を実施したことによって、地区内の1箇所で訓練を実施していた時よりも、住民の方が参加しやすくなり、参加者数も増えました。
2. 本部と避難所の情報伝達は、実災害を想定して防災無線を活用しました。
3. 訓練終了後に本部まとめ会議を開くことで、訓練の課題を共有することができました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

炊き出し用食材、起震車・煙体験ハウス（お近くの消防署で申請できます【P 4 4 参照】）、無線機

##### 必要なコト

学校避難所ごとの防災訓練計画の作成、起震車・煙体験ハウスの利用申請、アルファ化米の手配、訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）、消防団や消防署などへの指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P 4 4 参照】）、無線機の使用方法の周知

【問い合わせ先：大沢まちづくりセンター（042-761-2610）】

### 事例 3 - 4

## 情報伝達訓練（藤野地区）

藤野地区連合自主防災組織では、地震に伴う大規模な土砂災害が発生し、地区内の一部が孤立状態になったことを想定し、孤立した避難所から情報を収集する訓練を実施しました。

#### 【取組の目的】

単位自主防災組織から連合自主防災組織への情報伝達訓練を実施し、有事の際の迅速な情報伝達に備えること。

#### 【主な取組内容】

- ・ 衛星携帯電話や個人所有の携帯電話を使用した情報伝達訓練
- ・ 連合自主防災組織における情報収集と共有の訓練 ほか

### ここがポイント！

1. 災害・被災状況連絡票を使用することにより、確実に聞き取りを行うことができました。
2. 聞き取った内容をホワイトボードに記入することにより、本部メンバー間で情報共有を図ることができました。
3. 衛星携帯電話の特徴的な取扱方法（起動方法・電波受信）について、改めて確認することができました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

無線機、衛星携帯電話（孤立対策推進地区に配備）、ホワイトボード  
災害・被災状況連絡票、住宅地図

##### 必要なコト

訓練場所の確保（区役所やまちづくりセンターと調整）  
無線機及び衛星携帯電話の使用方法の周知、連絡先リスト（電話帳）の用意  
タイムスケジュールの作成、ホワイトボードへの転記方法の習得

【問い合わせ先：藤野まちづくりセンター（042-687-2119）】

## 事例 3-5

### 避難所通信訓練（橋本地区）

橋本地区連合自主防災隊と地区内の4箇所の避難所が同日に運営訓練を実施しました。また、訓練実施後はアンケート調査を実施し、訓練内容の見直しについても議論しました。

#### 【取組の目的】

現地対策班、連合自主防災隊、避難所運営協議会相互の連携を強化するとともに、情報を共有する体制を構築するための訓練を実施する。

#### 【主な取組内容】

- ・ デジタル地域防災無線による通信訓練
- ・ 現地対策班と連合自主防災隊による対応協議の訓練 ほか

### ここがポイント！

1. 自主防災隊と避難所運営協議会との役割分担や、それぞれの位置づけを明確にしておくことが重要です。
2. アンケートを実施したことで、訓練参加者のニーズに合った訓練を企画することができました。
3. 複数の情報通信機器を使った訓練を実施することで、災害発生時の通信インフラの障害に柔軟に対応することができました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

デジタル地域防災無線、ホワイトボード、住宅地図

##### 必要なコト

訓練場所の確保（区役所やまちづくりセンターと調整）

無線機の使用法の周知、連絡先リスト（電話帳）の用意

ホワイトボードへの転記方法の習得

※現地対策班への業務連絡のため、避難所担当市職員用の PHS を配備していましたが、PHS サービスが終了したため、現在は職員用としてスマートフォンが配備されています。

【問い合わせ先：橋本まちづくりセンター（042-703-0354）】

### 事例 3-6

## 田名地区・中央区役所情報伝達連携訓練（田名地区）

田名地区連合自主防災隊では中央区本部と連携し、情報伝達連携訓練を実施しました。訓練では各組織を配置し、住民の安否情報や地震被害に係る緊急情報などの各種情報を、簡易無線やデジタル地域防災無線、伝令等を用いて、各組織間で伝達を行うとともに、収集した情報を基に安否確認等の対応を行いました。

#### 【取組の目的】

田名地区の自主防災組織と中央区本部が合同で防災訓練を行うことにより、災害発生時の各組織の行うべき役割を確認するとともに、各組織の連携強化を目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 住民の安否情報や避難所の避難者数などの情報の他、災害発生場所や災害周辺住民の避難など緊急情報等の情報伝達訓練  
（伝達経路）区本部⇄現地対策班⇄地区連本部⇄単位自主防災隊、  
避難所⇄現地対策班⇄区本部
- ・ 区本部、現地対策班、地区連本部の各所における情報共有訓練（伝達を受けた情報を記録用紙やホワイトボード、地図等へ記録する、など）
- ・ 収集した情報のうち、対応が必要なものについての対応検討訓練

### ここがポイント！

1. 実践的な情報伝達訓練を実施することにより、特に地区連合自主防災隊と現地対策班等の連携強化を図ることができました。
2. 無線担当、記録担当、伝達担当などの役割分担を明確にしました。
3. 円滑な情報伝達を行うため、無線機やホワイトボード等の設置場所、各担当の配置場所を効率的な導線にしました。



#### 📌 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

各組織の会場確保、机、椅子、各種無線機、ビブス、地図、筆記用具、記録用紙、ホワイトボード、伝達する情報、各組織の防災計画及びマニュアル

##### 必要なコト

訓練参加者の共通理解（参加機関の打合せ）、無線機のチャンネルや充電の確認、無線機の通信確認、組織の計画やマニュアル等の確認、各担当等の業務内容の確認

【問い合わせ先：田名まちづくりセンター（042-761-0056）】

### 事例 3-7

## 清新地区・中央区役所情報伝達連携訓練（清新地区）

この訓練は、清新地区と中央区役所が連携し、災害発生時に各組織が行うべき役割を確認するとともに、組織間の連携強化や防災意識の向上のために行われました。

#### 【取組の目的】

清新地区の自主防災組織と中央区本部が合同で防災訓練を行うことにより、各組織の役割確認、組織間の連携強化、情報伝達訓練を通じた無線機等の操作能力の向上を目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ デジタル簡易無線及び携帯電話を使用した情報伝達連携訓練
- ・ 避難所開設及び運営訓練（避難者受け入れ、避難者数などの避難所の状況確認及び報告、不足物品報告及び対応など）

#### 【参加人数】

92人（清新地区連合自主防災隊6人、清新地区現地対策班3人、中央区本部2人、小山小学校避難所36人、清新小学校避難所24人、清新中学校避難所21人）

### ここがポイント！

1. 清新小学校では予行演習を行っていたため、前例のない訓練でしたが滞りなく実施することができました。
2. 物品が不足しているという報告（アドリブ）への対応を行うことで、実際の災害時の対応と同じような緊張感をもって訓練を実施することができました。

#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

伝達内容を記録するための用紙（送信側、受信側双方）、訓練進行表、報告用の携帯電話及びデジタル簡易無線機

##### 必要なコト

打ち合わせ会議による訓練内容・日程等の調整

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

### 事例 3-8

## 土砂災害対策訓練（藤野地区）

藤野地区牧野地域の各自治会、要援護者施設、消防団、警察、区役所・まちづくりセンター等が連携して、土砂災害を想定した訓練を実施しました。避難誘導訓練や防災講習、ワークショップなどで構成され、地域住民の防災意識の高揚を図ることができました。

#### 【取組の目的】

- ・ 風水害時における迅速な避難及び避難所の開設
- ・ 地域住民の土砂災害に関する知識・防災意識の向上
- ・ 地域住民自らが継続的に訓練を実施するための動機づくり など

#### 【主な取組内容】

- ・ 情報伝達訓練（ひばり放送や消防団等による車両広報）
- ・ 避難誘導訓練（避難指示等の発令に伴う避難誘導訓練の実施）
- ・ 避難対策ワークショップ（土砂災害ハザードマップ等を活用した住民参加型のワークショップ）



### ここがポイント！

1. 土砂災害ハザードマップを活用したワークショップにより、地域に潜在する危険性について理解が深まり、避難経路の検証を行うことができました。
2. 地域内の要援護者施設が訓練に参加したことで、災害発生時における相互の協力体制について再確認できました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

土砂災害ハザードマップ、地域の地図を拡大したもの、防災講習に使用するDVD・パワーポイントなどの資料、パソコン

##### 必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）

防災講習の講師の手配及び消防団や消防署など防災関連機関への指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P44参照】）、地域住民への訓練実施の周知・参加の呼びかけ

【問い合わせ先：緊急対策課（042-707-7044）】



### 事例 3-9

## 女性の視点に立った避難所の運営訓練（大野中地区）

大沼小学校避難所運営協議会、大野台小学校避難所運営協議会、消防、区役所・まちづくりセンター等が連携して、女性の視点に立った避難所運営訓練を実施しました。事前に実施した運営体制づくりを含め、女性のニーズを反映した避難所運営を構築しました。

#### 【取組の目的】

- ・ 女性の視点やニーズを反映した避難所運営体制の構築
- ・ 女性専用スペースの設置
- ・ 避難所運営協議会に女性が積極的に参画できる環境づくり など

#### 【主な取組内容】

- ・ 避難所開設訓練（女性の専用スペース等の設置）
- ・ 避難所運営訓練（被害情報、避難者カード等の情報集約等） など



### ここがポイント！

1. 避難所運営協議会に9つある班のうち、4つの班の班長に女性を任命するなど、女性が避難所運営に参画しやすい環境の整備を行い、意見を運営体制に反映することができました。
2. 地域内の防災マイスターに協力を要請することで、計画の立案等をスムーズに行うことができました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

班分けを行うためのゼッケン、案内看板（張り紙）

※運営訓練に必要な資機材は、災害時に実際に使用するものを使用

##### 必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）

防災講習の講師の手配及び消防団や消防署など防災関連機関への指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P 44 参照】）、地域住民への訓練実施の周知・参加の呼びかけ

【問い合わせ先：大野中まちづくりセンター（042-741-6695）】

### 事例 3-10

## 鵜野森中学校避難所開設・運営訓練（大野中地区）

鵜野森中学校避難所運営協議会が実施した防災訓練では、災害が発生し避難者が体育館に集まったという想定で、避難所立ち上げから運営に至るまでの訓練を行いました。

#### 【取組の目的】

これまであった避難所開設及び運営時の事象を参考に、訓練時の状況を想定して、効率的な避難者数の把握のための訓練を行うとともに、実際の避難生活がどのようなものかを学ぶことを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 避難所倉庫から屋内運動場への資機材搬送
- ・ 避難所の設営訓練
- ・ 避難者の受付訓練（人数把握、誘導等）
- ・ 段ボールベッド、エアベッドの組立訓練と使用体験

#### 【参加人数】

60人

### ここがポイント！

1. 避難者同士が円滑なコミュニケーションをとれるような避難所運営の方策を考えました。
2. 段ボールベッドとエアベッドは設営が簡単なため、なるべく多くの人に設営を体験してもらい、避難所開設時には円滑にベッドを設営できるように準備をしました。

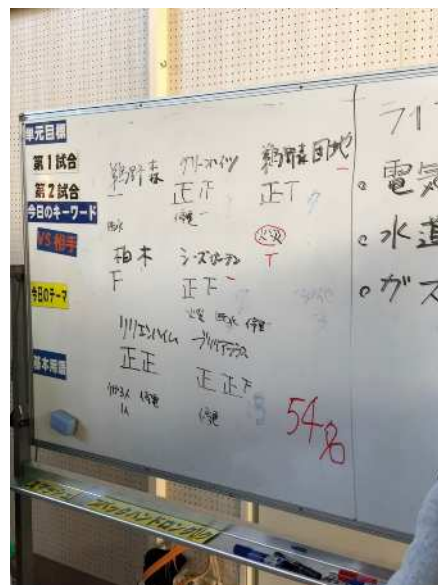
#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

ホワイトボード、ネームプレート、筆記用具、  
段ボールベッド、エアベッド

##### 必要なコト

避難所の開設・運営について事前に役割分担すること



【問い合わせ先：大野中まちづくりセンター（042-741-6695）】

光が丘地区自治会連合会及び地区内5避難所運営協議会との合同で、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた訓練を行い、避難所運営についての考え方を刷新しました。

#### 【取組の目的】

従来の避難所の運営手順に新型コロナウイルス感染症対策を追加することで、現状に即した避難所運営の準備方法・考え方に改めることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 避難者の受付訓練（発熱の有無確認、体調不良者用スペースまでの動線確保など）
- ・ 屋内運動場内の居住スペースの見直し（3密回避のため一人当たりの面積を拡大）
- ・ 避難スペースを目的別に追加設定（乳幼児用、要援護者用など）
- ・ 校庭への車両受入れを想定した準備（駐車位置の確認など）

#### 【参加人数】

150人程度（避難所1箇所につき30人程度×5箇所）

### ここがポイント！

1. 施設管理者（学校）・市担当者・運営協議会役員で事前打ち合わせを実施し、利用教室（追加の避難スペース、体調不良者用スペースなど）の再設定・必要資機材の追加などを行いました。
2. 現状の運営方法等についての「まとめ冊子」を作成して参加者全員へ配布し、各避難所運営協議会の現状の把握を促すことで、実際の現場対応力の向上を図りました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

- ・ 感染症対策資機材（非接触型体温計・フェイスシールド・健康チェックシート他）
- ・ 事前に更新した「施設利用図」・「避難所立ち上げ手順書」など
- ・ 校庭への車両配置図と準備に必要な資機材

##### 必要なコト

施設管理者（学校）・避難所担当職員・協議会役員での事前協議  
訓練参加者への事前説明会の開催（訓練内容、訓練手順など）

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

### 事例 3-12

## 向陽小学校 避難所運営訓練（小山地区）

向陽小学校避難所運営協議会では、体調不良者用スペースへの誘導路や感染症対策方法の確認など、避難所運営全般に関する訓練を行いました。

#### 【取組の目的】

避難者受付時の飛沫感染防止対策の策定や、事前に定めた体調不良者用の教室の確認等を通して、「避難者が安心して過ごせる避難所運営体制」に必要なことは何かを考え、整備することを目的とする。

#### 【主な取組内容】

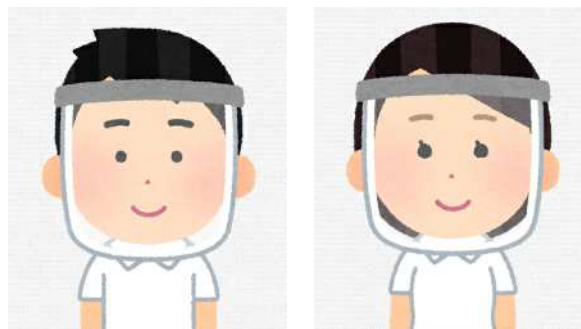
- ・ 体調不良者用スペース（教室）までの誘導路確認
- ・ 避難、滞在スペースの確認
- ・ 避難者受付訓練
- ・ 避難所倉庫備蓄品の確認

#### 【参加人数】

21人（協議会員15人、市担当職員3人、小学校職員2人、防災専門員1人）

### ここがポイント！

1. 避難者の受付時の飛沫防止対策に関して検討を行いました。
2. 避難者の居住スペースの確保に関して対策をしました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

飛沫感染防止用ビニールシート、ポール、養生テープ、フェイスシールド

##### 必要なコト

新型コロナウイルス感染症対策についての事前勉強会、  
教室の確認のための学校側との調整、  
避難所内の居住スペースの配置構想づくり

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

谷口中学校避難所運営協議会で行った避難所運営訓練では、新型コロナウイルス感染症対策を盛り込んだ避難者受け入れ体制の準備を行いました。

#### 【取組の目的】

体育館及び教室の収容可能人数や避難スペースまでの動線の確認などを行い、災害時、避難者を受け入れる際の体制を新型コロナウイルス蔓延時の想定に改めることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 避難者の受付訓練（体温測定、手指消毒用スペースの設置など）
- ・ 体育館内の居住スペースの確認（三密を回避した状態での収容人数の確認）
- ・ 教室への体調不良者の誘導路の確保・確認

#### 【参加人数】

26人

### ここがポイント！

1. 三密を回避するために養生テープで一人当たりのスペースを作り、その際の体育館の収容人数がどの程度になるのかを確認しました。
2. 新たに避難スペースとなる教室を、要配慮者用や体調不良者用などというように、目的別に区分けして、迅速なゾーニングを行えるよう事前に準備をしました。
3. 受付訓練の際には、非接触型体温計や手指消毒液等を活用し、感染症対策を行いました。

#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

非接触型体温計、消毒液、受付用テーブル、避難者名簿、養生テープ、巻き尺

##### 必要なコト

学校側との事前打合せ（体育館及び教室を訓練に使う日時の調整のため）

【問い合わせ先：大野南まちづくりセンター（042-749-2217）】

### 事例 3-14

## ＬＰガスの提供を受けた炊出し訓練（小山地区）

災害の発生に伴い、向陽小学校に避難してきた避難者に炊出しを行う想定でＬＰガスボンベ等の物資の調達要請、搬入、設置、炊き出しという協定書に基づく実際の流れに沿った訓練を計画しました。

#### 【取組の目的】

協定書に基づいた物資の調達要請から炊出しまでの手順と役割を確認するとともに、地域、市及び神奈川県ＬＰガス協会相模原支部の各組織間の連携強化を図る。

#### 【主な取組内容】

- ・ 避難者の状況報告
- ・ 調達物資の要請（ＬＰガスボンベ、ガスコンロ、調整器等）
- ・ 調達物資の搬入、設置、３００食の炊出し、給食

### ここがポイント！

1. 協定に基づいた実践的な訓練を実施することにより、各組織間の連携強化を目的としました。
2. 協定に基づき、各組織間の役割分担を次のとおり明確にして実施することを目指しました。

○小山地区連合自主防災隊から市に避難者等の状況報告

○市で調達物資の必要性の確認、協会に要請の手続き

○神奈川県ＬＰガス協会相模原支部で市から要請を受け物資を現地に搬入・設置

○小山地区連合自主防災隊で炊出し給食



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

鍋、アルファ化米、レトルトカレー

※神奈川県ＬＰガス協会相模原支部が訓練使用物品（ＬＰガスボンベ、ガスコンロ、調整器等）及び展示物品等（ガスメーター、ガス用発電機）を用意

##### 必要なコト

訓練会場の確保、市及び神奈川県ＬＰガス協会相模原支部との調整

【問い合わせ先：中央６地区まちづくりセンター（０４２－７０７－７０４９）】

### 事例 3-15

## 地区と小学校給食室の連携による炊出し訓練（清新地区）

清新小学校の給食室で給食調理員が災害時を想定した炊き出しを実施し、清新小学校及び清新中学校の避難所と連携した配送訓練を実施しました。

#### 【取組の目的】

地区防災計画に基づいた米飯の炊き出しの手順と役割を確認するとともに、地域、学校等の各組織間の連携強化を図る。

#### 【主な取組内容】

- ・ 給食調理員による給食室の回転釜を使用した（300食）炊出し訓練
- ・ 炊き上がった米を回転釜から米飯缶に移す訓練
- ・ 米飯缶を給食室で、給食調理員から各避難所の炊き出し班に引き渡す訓練
- ・ 清新小学校から各訓練会場までの搬送訓練
- ・ 給食訓練

### ここがポイント！

1. 地区防災計画に基づいた実践的な訓練を実施し、災害時の避難者への給食体制の強化が図ることができました。
2. 給食調理員が給食室内の回転釜を使って、アルファ化米（300食分）の炊き出しを行い、清新小学校及び清新中学校の炊き出し班が配送、盛付等を行いました。



#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

アルファ化米、米飯缶、リヤカー、しゃもじ、パック弁当容器、輪ゴム、割り箸、ゆかり、机（盛り付けや給食時に使用）、テント、衛生用品（帽子、エプロン、マスク、アルコール消毒液、ビニール手袋）

##### 必要なコト

訓練会場の確保、給食室（栄養教諭、管理栄養士など）との調整、訓練の共通理解（各組織内、各組織間等の打合せ）

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

中央小学校避難所運営協議会では、避難所倉庫に保管されている備蓄品の整理を行い、避難所開設時、即座に備蓄品を持ち出せるように準備をしました。

**【取組の目的】**

避難所倉庫に保管されている備蓄品の整理を行い、避難所開設時、即座に備蓄品を持ち出せるように準備すること、また、避難所にある物品にはどのようなものがあるのかを把握することを目的とする。

**【主な取組内容】**

- ・ 避難所倉庫内の掃除
- ・ 備蓄品の整理
- ・ 備蓄品の一覧、及び位置図の作成

**【参加人数】**

不明（避難所運営協議会が参加）

**ここがポイント！**

1. 避難所開設等の訓練の際に、訓練で使用した備蓄品を戻す位置が決まっていなかったことが、倉庫が整頓できていなかった一因であるため、位置図を作成し、訓練後にはどこに何を戻すのかが分かるようにしました。
2. うまく収納できるように物品の置き場所を変える、クリアケースでまとめておくなど、使うときに出しやすく見つけやすいように保管方法を工夫しました。

**📎 実施にあたって用意するモノ＆コト****必要なモノ**

クリアケース、棚の拭き掃除用具（雑巾など）、五十音順の物品リスト

**必要なコト**

同様の取組を行った避難所の避難所運営協議会から聞き取り  
避難所運営協議会内での調整（日程、人員などについて）

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】



## 4 防災に関する普及啓発活動

### 事例 4-1 防災講演会（津久井地区）

津久井地区自治会連合会では、津久井地区の自主防災隊自治会員を対象に防災意識を高めるための取組として、平成24年度から「防災講演会」を実施しています。

#### 【講演会の目的】

防災に関する講演会を実施し、日ごろから災害に対する備えと心構えとして「自助」「共助」を啓発する。

#### 【講演内容】

テーマ：「女性の視点から見た避難所と日頃の備え」

講師：危機管理教育研究所 代表 国崎 信江 氏

日時：平成29年1月21日（土）午後2時～午後4時15分

会場：津久井中央公民館 1階 ホール

### ここがポイント！

1. 避難所運営に女性の協力が非常に重要になると考え、平成27年度から「女性の視点から見た避難所と日頃の備え」というテーマで実施しています。
2. 地域の女性に講演を聴いていただくことが重要と考え、平成28年度から講演の対象を自主防災組織のリーダーから全自治会員に変更し、参加者約200名のうち女性の参加者を約70名募ることができました。

#### 📎 講演会実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

マイク、スクリーン、パソコン等

##### 必要なコト

講演会の会場確保、講師との調整



【問い合わせ先：津久井まちづくりセンター（042-780-1403）】

## 事例 4-2

## 防災啓発カレンダー（津久井地区）

津久井地区自治会連合会では防災啓発として、「火災情報の入手方法」、「災害用伝言ダイヤルの使用方法」等を記載した防災カレンダーを平成27年度から作成し、全世帯へ配布しています。

### 【カレンダー配布の目的】

日ごろから災害情報の入手方法を知ってもらい、防災意識を啓発する。

### 【概要】

対象：7269世帯（平成28年度実績）

内容：「ひばり放送、火災情報の入手方法」

「災害用伝言ダイヤルの使用方法」

「避難に関する3つの情報の説明」 など

### ここがポイント！

1. パンフレットやガイドブックは、日常的に目に触れることがないため、継続した啓発になりにくいという課題を抽出しました。
2. 防災を習慣づける、あるいは災害に備えるための啓発をより有効にするために、目に触れることの多いカレンダーを利用することとしました。



### 📎 カレンダー製作にあたって用意するモノ&コト

#### 必要なモノ

防災ガイドブックなど、防災啓発に有効な情報を集めるための参考資料

#### 必要なコト

掲載する情報の整理

配布先の数、費用、業務日数などを考慮した印刷作業の委託

【問い合わせ先：津久井まちづくりセンター（042-780-1403）】

防災マイスターによる講義と運営協議会で決定した訓練内容を実施し、防災意識の向上を図りました。

#### 【講話と訓練の目的】

災害時における避難所の開設・運営を円滑に行うため、防災マイスターの講話により知識を共有した上で、避難所運営訓練を行う。

#### 【主な訓練内容】

- ・ 避難所受付・避難者名簿作成訓練
- ・ 防災マイスターによる講義
- ・ 仮設トイレ設営訓練
- ・ 炊き出し訓練 など

### ここがポイント！

1. 防災マイスターの講義を先に行うことで、避難所に関する基礎知識を持った状態で避難所運営訓練を行うことができました。
2. 避難者カードを活用した避難所への誘導や運営協議会で購入した啓発物品の（エマージェンシーボトル※）の紹介などを行い、防災意識の向上を図りました。



※エマージェンシーボトル：ウォーターボトルの中に懐中電灯やホイッスルなどが入った防災用品のセット

#### 📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

訓練用アルファ化米およびビスケット、仮設トイレ、防災啓発物品

※マイスター講話にはプロジェクター、パソコンを使用

##### 必要なコト

防災マイスターとの調整、役割分担などに係る事前打合せ、会場の確保、アルファ化米等の事前申請および受取り

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

#### 事例 4 - 4

### 橋本地区避難所運営協議会連絡会（橋本地区）

橋本地区では、地区内の避難所運営協議会の情報共有の場として「橋本地区避難所運営協議会連絡会」を開催しています。この連絡会には各避難所運営協議会会長・副会長、現地対策班（橋本まちづくりセンター）、緑区役所地域振興課などが参加しました。

#### 【連絡会の目的】

避難所の開設・運営に関して、各避難所の状況を知り、意見や情報を交換することで地区全体の防災力の向上を図る。

#### 【主な内容】

- ・ 避難所運営訓練の計画内容及び実施状況
- ・ 避難所運営に関する意見交換 など

#### ここがポイント！

1. 連絡会を行うことで、避難所運営訓練を実施するうえでの課題や訓練の成果などを共有することができました。
2. 連絡会では必要に応じて避難所担当職員や防災専門員に参加を依頼し、地区の防災に携わる方の顔合わせやそれぞれの立場からの意見交換を行うことができました。



#### 📎 実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なコト

地区内の避難所運営協議会との調整、会場の確保や出欠確認などの連絡会の運営

【問い合わせ先：橋本まちづくりセンター（042-703-0354）】

## 事例 4 - 5

### 城山地区内避難所運営協議会等打合せ会（城山地区）

避難所運営協議会、学校施設管理者、避難所担当市職員及び連合自主防災組織の関係者が一堂に会する機会を設け、役割分担の確認や情報の共有を行いました。

#### 【取組の目的】

避難所運営協議会、学校施設管理者、避難所担当市職員及び連合自主防災組織の関係者が一堂に会する機会を設け、避難所運営における地域住民、施設管理者、市職員の役割分担の確認や情報の共有を行うことにより、平常時における避難所運営訓練等の充実を図るとともに、災害時における避難所の円滑な運営を図ることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 避難所の運営について説明（緑区役所地域振興課より）
- ・ 各避難所単位での情報交換等（自己紹介、協議会の現状確認、今年度の会議及び訓練計画について、など）

#### 【参加人数】

50人

### ここがポイント！

1. 避難所運営協議会ごとにチェックシートを活用し、避難所の鍵の管理体制、連絡体制及び施設の使用区域の確認等を行いました。
2. 年に一度、避難所運営協議会及び連合自主防災組織の関係者が合同で会議を開くことにより、城山地区内の情報共有を行うとともに、地区内の防災対策の連携を図ることができました。



#### 📎 実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なモノ

各避難所のチェックシート、筆記用具

##### 必要なコト

避難所運営協議会、施設管理者、避難所担当職員、連合自主防災隊との調整、会場の確保

【問い合わせ先：城山まちづくりセンター（042-783-8117）】

## 事例 4-6

### 独自の避難所運営マニュアルの作成（橋本地区）

宮上小学校避難所運営協議会では、新型コロナウイルス等の感染症対策を考慮した独自の運営マニュアルを検討、作成しました。

#### 【取組の目的】

既存の避難所運営マニュアルを参考に、避難所独自の避難所運営マニュアルを検討、作成することで、実際に災害が発生した際の各作業班の対応を体系的に整理すること、及び避難所における感染症予防の具体的な対策を検討することを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ 避難所運営協議会によるマニュアル案の作成
- ・ 市担当者や施設管理者への内容確認
- ・ 避難所となる学校の施設、設備の再確認
- ・ 避難所運営協議会を開催し、マニュアル案についての情報共有と意見交換（関係自治会の会長及び防災部長、市の危機管理課、緑区役所地域振興課など市関係部署の担当者が出席）
- ・ 意見交換を受けてのマニュアルへのフィードバック

#### 【参加人数】

34人

### ここがポイント！

1. 感染症対策として避難区画の配置見直し、感染の疑いのある避難者や感染弱者用避難区画の換気対策を盛り込みました。
2. 小学校の非常用発電機の電力供給系統、緊急遮断弁付受水槽の仕組みや上水の系統を踏まえたマニュアルの整理を行いました。
3. 避難所運営協議会の組織、業務分担、業務フローの見直しを行いました。

#### 🔗 実施にあたって用意するモノ＆コト

##### 必要なコト

国、県、市の新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインや医療機関の感染予防対策のマニュアル等の確認、避難所となる小学校の実地調査や各施設や設備の再確認、市の関係機関からの意見聴取

【問い合わせ先：橋本まちづくりセンター（042-703-0354）】

## 事例 4-7

### ハザードマップと防災ガイドブックの読み合せ会（新磯地区）

新戸釣瓶下自主防災隊では、ハザードマップと防災ガイドブックについての勉強会を開催し、自分たちの住む地域のどこに危険度の高い場所があるかを確認しました。

#### 【取組の目的】

ハザードマップと防災ガイドブックについての勉強会を開催し、自分たちの住む地域のどこに危険度の高い場所があるかを確認することで、事前に災害に備えるきっかけとなることを目的とする。

#### 【主な取組内容】

- ・ ハザードマップと防災ガイドブックの読み合わせ
- ・ 自治会長及び副会長による資料についての解説、講義
- ・ 浸水、液状化の可能性等、近隣の危険度を把握し、災害時にどのような行動をとるべきかについて議論
- ・ 新磯地区連合自主防災隊の有志が作成した「新磯地区防災・ひなん双六」の使い方について説明

#### 【参加人数】

28人

### ここがポイント！

1. 新型コロナウイルス感染症対策のため、2回に分けて行い、それぞれ70分の勉強会を行いました。
2. 対象の自治会員のうち、約半数が集まり、説明と熱心な質疑応答が行われました。

#### 📎実施にあたって用意するモノ&コト

##### 必要なモノ

各資料を人数分

- ・ 相模原市ハザードマップ
- ・ さがみはら防災ガイドブック

##### 必要なコト

回覧等による自治会員への開催通知の周知の徹底



【問い合わせ先：新磯まちづくりセンター（046-251-0014）】





## 【参考】

- 参考 1 熊本地震に伴う派遣職員の体験から
- 参考 2 さまざまな種類の訓練・取組
- 参考 3 相模原市からのお知らせ
- 参考 4 さがみはら防災マイスター制度について

## 参考1 熊本地震に伴う派遣職員の体験から

平成28年4月に発生した熊本地震に対し、相模原市は熊本市に保健師や事務職職員を派遣しました。

ここでは、実際に現地で避難所運営に関連する業務を行った職員がその体験を通して感じた、【避難所運営において備えておくべきこと】を紹介します。

### 【派遣期間】

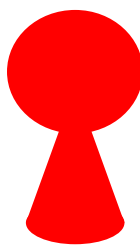
平成28年4月20日（水）～平成28年6月30日（木）

（避難所運営の支援は平成28年4月26日（火）～平成28年5月19日（木））

### 【主な業務内容】

避難所運営の支援、保健師業務、罹災証明発行補助業務、下水管きよ調査、建築物応急危険度判定 ほか

## 学校との連携、ボランティアの管理



保健師

4/20～4/28 滞在

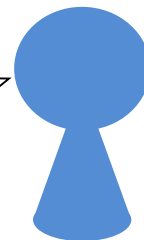
主な業務：ボランティアへのトイレ清掃指導

- ① 避難所の物品の他、学校の備品を借用する必要がありました。避難所運営者と学校職員が協力することにより、活動がしやすくなると感じました。
- ② 毎日入れ替わるボランティアに同様の説明をすることに時間を取られました。ボランティア対応の担当者を配置すると、混乱を避け効率化を図ることができると思います。

## 避難所生活のルールづくり、地域本部との情報共有

主な業務：避難所運営支援全般

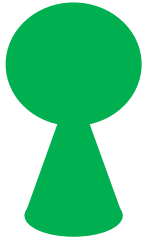
- ① 一部の避難所ではペットを生活スペースに持ち込んでしまうなどの問題が発生しました。避難所で生活する上ではルールをつくり、明確に周知することが大切です。
- ② 避難所で職務に就いた時には状況が落ち着き、物品にも余裕がありましたが、消費できない量の食料が届き、対応に苦慮しました。本部との情報連絡をしっかりと行うことが重要です。



事務職

5/4～5/9 滞在

## 運営への避難者の協力、物資の受入



事務職

5/8～5/14 滞在

主な業務：避難所運営支援全般

- ① 「仕事で朝が早いので、早めに朝食を提供して欲しい」という避難者がおり、対応に苦慮しました。運営ルールを工夫するだけでなく、避難者ひとりひとりが避難所運営について考えていただけるように周知が必要です。
- ② 地元の業者の善意による炊き出しを実施していただきましたが、提供物の量が多く、避難所内で廃棄しなくてはなりませんでしたが、心苦しいですが、衛生面の心配もあるので、余った物は持ち帰っていただく等の対応をするべきでした。

## 物品の管理、配布のルールづくり

主な業務：避難所での物品管理

- ① 避難所に物資は集まりますが、その管理・整理が追いつかず、必要なものが取り出せない状況がありました。物資の整理ができていだけで、運営者は管理がとても楽になります。
- ② 物資を配布するときは、ルールをしっかり決めなくてはなりません。「ご自由にお持ちください」という表記のみだと、必要より多く持って行ってしまおう方もいらっしゃるので、混乱を招くことがあります。



事務職

5/13～5/19 滞在

## 衛生管理、避難所の収束



事務職

5/13～5/19 滞在

主な業務：避難所運営支援全般

- ① 気温が上がってくる時期であったため、食中毒がないよう、手洗い、マスクと手袋の着用、机上や床のアルコール殺菌、余剰食材の廃棄管理など衛生管理を特に徹底しました。
- ② 発災後1ヶ月が経過し、ライフラインの回復や周辺の商店の営業再開が進んでいました。避難所の閉鎖や収束に関するルールを定めておく必要があると感じました。

## 参考2 さまざまな種類の訓練・取組

地域の防災力を高めるための取組とは答えがあるものではなく、様々な方法があります。

ここでは事例としては紹介できなかった手法を掲載します。事例と同じように、地域での取組の参考としてください。

### 地域の特性を知る

「地域の防災上の特性」は普段の生活ではなかなか気がつかないものです。

まちの中にある災害発生時に活用できそうな「場所」「物品」「人」「機材」や、防災上危険と思われる箇所などを確認することで、防災計画や訓練内容を策定する参考にしましょう。

#### 【主な内容(例)】

- ・ 各種ハザード情報等をまとめた「さがみはら防災マップ」などを見て、自分の住んでいるまちを歩き「防災に役立ちそうなモノ」「災害が発生したら危険だと思うところ」などを記録していく。(写真なども活用する。)
- ・ 各自で記録したものを地図や模造紙にまとめるなどして、地域の中で情報を共有する。
- ・ まとめた情報を基に、「地域の防災上の特性」を整理し、後の取組の参考とする。



さがみはら防災マップ



マイ・タイムライン

#### ここがポイント！

例えば、工務店や商店、個人でも工具やそれを使用する技能を持っている人など、まず地域の持つ能力を把握できれば、どのような連携体制をとるべきかという議論を行うことができます。

地区の防災計画や、自分や家族等の防災行動計画(マイ・タイムライン)等を検討する前の段階として、こういった取組を行うと効果的です。

### 防災訓練で想定する災害の種類を変える

地震災害と大雨等による風水害では、災害発生時の状況が大きく異なり、避難方法や避難場所なども変わります。地域では地震だけでなく、水害を想定した防災訓練も実施しましょう。

#### 【主な内容(例)】

- ・ 地震発生時と風水害発生時の避難経路の違いを確認する。
- ・ 避難情報の内容に応じて、風水害時避難場所に避難を行う。
- ・ 必要に応じ避難所への移動と避難所開設の訓練を行う。



#### ここがポイント！

地震発生時の避難行動との違いを把握し、適切な行動をとることができるかを検証しましょう。

風水害発生を想定した地域内の危険箇所の把握や、要援護者の避難方法なども検討が必要です。

## 訓練にゲームやイベントの要素を取り入れる

防災訓練を親しみやすく、楽しく行うことで多くの方に参加していただくことができます。家族で参加してみたいと思うようなイベント、子どもたちが楽しめるゲームを訓練に取り入れてみましょう。

### 【主な内容(例)】

- ・ 避難所運営訓練と併せて図上演習訓練(DIG)、避難所運営ゲーム(HUG)、クロスロードなどのゲームを行う。
- ・ 他市町村には、次のような手順のゲームを取り入れた事例があります。

「防災・宝探しゲーム」と題して、地域内の公園や公共施設を巡り、地域の自然や歴史、文化に触れながら災害時の避難所・避難場所等を確認し防災意識を高めることを目的とするイベントを開催する。



### ここがポイント！

新たにイベントを計画する場合には様々な調整が必要となりますが、例えば、地域でのお祭りに防災啓発の要素を組み込むなど、既存のイベントを利用することも効果があります。

## 防災備蓄品の資機材を使ってみる

避難所に備蓄されている資機材には、例えば、チェーンソーやバール、のこぎり等のように「すべての人が使い慣れているわけではないもの」が含まれています。備蓄品をより有効に活用するために、訓練で実際に使用する機会を設けましょう。

### 【主な内容(例)】

- ・ 救出救護のための資機材を実際に使用する。
- ・ 災害発生時と全く同じ条件(使用する水や火の確保など)で炊き出し訓練を行う。



### ここがポイント！

有事の際には、知識のある方が中心に作業を行うと効率的ですが、訓練ではあえて不慣れな方に経験を積んでいただくことも重要です。また、女性の参加者のみで力のいる作業(例えば仮設トイレの設営)を行うなど、限られた人員で資機材を使用できるのかを検証することも効果的です。ただし、実施する場合には安全確保に十分注意しましょう。

## 避難所のトイレの問題を考える

避難所における重要な課題の一つにトイレの問題があります。避難所の備蓄倉庫には断水した際に使用する組み立て式仮設トイレなどが格納されていますので、設置方法の確認や設置場所の検討などを事前に行っておきましょう。

### 【主な内容(例)】

- ・ 組み立て式仮設トイレの設置場所の検討
- ・ 実際に仮設トイレを組み立てる作業の確認



### ここがポイント！

避難所に配備している組み立て式仮設トイレは、水分のみ排出できる構造です。敷地内の汚水マンホールから排水できますので、事前に設置場所を検討しましょう。

設置場所を検討するときは、居住区画に臭いが漏れないことが重要ですが、夜間に子どもや女性が安心して使用できるよう、防犯面も考慮しましょう。

## 避難生活を行う区画の整備

避難所は様々な方が利用しますが、高齢者や障害をお持ちの方など、配慮が必要な方もいらっしゃいます。避難所の区画は、様々な事情の方に対応できるよう、あらかじめ計画しておきましょう。

### 【主な内容(例)】

- ・ 自治会で区画を分けるなどのルールの検討
- ・ 必要な方への支援ができるようなレイアウトの検討



### ここがポイント！

例えば足腰が悪い方は、トイレに行きやすいところに配置する、要援護者支援班がすぐに手伝えるように本部の近くに配置するなどの工夫をしましょう。

壁際に寄りかかることができるなど、対応できる範囲で、個人の要望に即した配置ができるよう検討しておきましょう。

ペットの区画については、居住区画に影響を及ぼさないような場所に設置することが前提であることに加えて、動物アレルギーをお持ちの方との生活動線が重ならないよう工夫をしましょう。

## 参考3 相模原市からのお知らせ

### 「さがみはら防災マイスター」を派遣します！

相模原市では「さがみはら防災スクール」を受講し、防災士の資格を取得した方を「さがみはら防災マイスター」として認証しています。

「さがみはら防災マイスター」は地域団体からの依頼に基づき、講座の開講や災害図上訓練(DIG)、避難所運営ゲーム(HUG)、クロスロードといった防災に関する普及活動を行っております。

地域の防災対策を検討する際に「さがみはら防災マイスター」を活用しましょう。

※さがみはら防災マイスター制度については45ページ以降をご覧ください。

また、申請の手続きなどはホームページにも掲載しております。

相模原市ホームページ (<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/index.html>)

>暮らし・手続き >防災・危機管理情報 >地域における防災活動

>さがみはら防災マイスター



【問い合わせ先:危機管理課(042-769-8208)】

### 防災訓練に消防職員を派遣します！

相模原市では、自主防災訓練、研修会などを実施する際に、指導員(消防職員、消防団員又は市職員)の派遣や資機材の提供を行っております。

申請の窓口は各消防署です。実施日の1ヶ月前までに申請してください。

※必要な人員、資機材の調整を行いますので、申請の前に下記にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

地域等の防災訓練や講演会:お近くの消防署にお問合せください。

避難所の運営に関すること:各区役所の地域振興課にお問合せください。

緑区役所地域振興課 (042-775-8801)

中央区役所地域振興課(042-769-9801)

南区役所地域振興課 (042-749-2135)

その他、制度に関すること:危機管理課 (042-769-8208)



## さがみはら一分間行動訓練を実施しましょう！

「さがみはら一分間行動訓練」とは

- 大規模地震発生時のはじめの1分間に、落ち着いて適切な行動をとるための訓練です。
- 地震が起きたときの行動について、地域や家族、職場などで確認しておきましょう。

### 地震発生！



### 1 その場に合った身の安全の確保

- 机やテーブル等がある場合は、その下に入る。
  - 家具類やガラス戸から離れ、座布団等で頭部を保護する。
  - その場で、姿勢を低くし、頭部を荷物や手で保護する。
- ※下記を参照



#### 地震災害時の防ぎよ姿勢

片ひざを付き、後頭部に握り締めた両手のこぶしをしっかりと乗せておく姿勢も有効です。  
(揺れが収まるまで維持！)

### 2 出口・避難路の確保

- 地震の揺れにより建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがあります。
- 早めにドアや窓などを開けて、出口（避難路）を確保しておきましょう。

### 3 火の始末

- 自分の家から火事を出さないようにしましょう。
- ただし、大きく揺れている間に無理して火を消そうとすると、やけどをすることも危険です。
- まずは、身の安全を確保してから火を消してください。

【問い合わせ先：緊急対策課（042-707-7044）】



## 参考4 さがみはら防災マイスター制度について

市では「さがみはら防災マイスター制度」を定めており、さがみはら防災マイスター（以下、「防災マイスター」という。）の方々には、地域の防災力向上のために様々な取組を行っていただいております。

ここでは、防災マイスターの活動の一例を紹介します。制度をご活用いただくための参考としてください。

※なお、ここにはご登録いただいている防災マイスターの方々が今後の活動の参考としていただける様に記載した項目も含まれております。用途に応じてご活用ください。

### 「さがみはら防災マイスター制度」とは

市が実施する「さがみはら防災スクール」を修了し、NPO 法人日本防災士機構の「防災士」の資格を取得している方です。認証された防災マイスターは、防災伝道師として防災講座等の講師を行います。

防災マイスターの講義等は、市内在住・在勤・在学の原則 10 名以上の団体であれば、どなたでも受講できます\*。

防災マイスターが行う主な内容は次のとおりです。

#### ① 防災講座

大規模災害時の自助・共助に関する講義等を行う。

#### ② D I G（災害図上訓練）

地図上の河川、鉄道、主要な道路を色分けし、さらに被害想定箇所を書き込み、それを基に地域内の特徴や被害を避けるための方法を話し合う。

#### ③ H U G（避難所運営ゲーム）

避難所の平面図を使い、年齢・性別など様々な避難者をどう収容するか、資機材を避難所のどこに設置するか、といった避難所運営をゲームで体験する。

#### ④ クロスロード

実際の災害現場で起こった葛藤が書かれたカードを使い、自分ならその状況でどうするか判断し、参加者同士でその課題についてゲーム形式で話し合う。

※受講の申請方法などについてはホームページをご覧ください。

相模原市ホームページ (<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/index.html>)

＞暮らし・手続き ＞防災・危機管理情報 ＞地域における防災活動

＞さがみはら防災マイスター



相模湖地区の避難所運営訓練に3名の防災マイスターが参加し、避難所運営の流れを確認しました。

また、千木良小学校避難所運営協議会に対して、ここで紹介した訓練当日の参加と振り返りだけでなく、事前の準備から参加し、運営体制に対して総合的にアドバイスを行いました。

**【防災マイスター制度利用の目的】**

避難所運営訓練のアドバイザーとして防災マイスターに意見を求める。

**【活動内容】**

実際に避難所運営訓練に参加することで課題等を把握し、運営方法に対してアドバイスを行う。

**防災マイスターから**

1. 活動の成果

防災マイスター3名が分担することで、訓練全体を検証することができました。年次スケジュールを組んで、繰り返し避難所運営訓練を行っていくことが大切であると感じました。



2. これから活動する防災マイスターへ

防災講座、DIG、HUG、クロスロードなど、一般的な防災マイスター活動にとらわれずに実施したことが、防災訓練を成功に導くことに繋がりました。また、今回の活動が地域に対しての「さがみはら防災マイスター制度」のPRにもなりました。

【問い合わせ先：危機管理課（042-769-8208）】

清新地区において、地区内に居住する70歳以上の独居者を対象とし、平時に準備しておくべきことや発災時の安全行動、自助・共助について講演を行いました。

【防災マイスター制度利用の目的】

市民の方々に、自助・共助の講演を行うことで、防災意識の普及・啓発を図る。

【活動内容】

平時に準備しておくべきこと、発災時の安全行動（自助・共助）について講演を行った。

防災マイスターから

1. 活動の成果

講演のほか、災害時の食料の解説や取扱いについての説明も行うことで、参加者の方の興味・関心を引くことができました。



2. これから活動する防災マイスターへ

主にパワーポイントを使用した講演を行っていますが、資料に使える素材が少ないため、作成に苦労しました。今回は清新地区社会福祉協議会役員、担当者等の方々と協力して実施することができました。

【問い合わせ先：危機管理課（042-769-8208）】

大野中地区の若沼自治会では、地域での防災活動を積極的に行っていただく「防災サポーター」を結成しました。その発会式にて、防災マイスターが自助・共助・公助などについて講演を行いました。

【防災マイスター制度利用の目的】

自治会で結成した「防災サポーター」が活動するにあたり、防災の知識を学ぶ。

【活動内容】

自助・共助・公助などをテーマとした講演会を実施した。

防災マイスターから

1. 活動の成果

講演の内容を、防災サポーターがどのような活動を行っていくか議論する際の参考としていただくことができました。また、自主防災組織についても、地域での防災活動について見直しを行うきっかけとなりました。



2. これから活動する防災マイスターへ

防災講演を行うにあたっては、日頃からシンポジウムや書籍で知識を増やし、参加者に分かりやすく伝えられるように心がけています。また、自分から積極的に地域の防災訓練等に関わっていくこと、他の防災マイスターと協力し合うことが大切だと考えます。

【問い合わせ先：危機管理課（042-769-8208）】



## 問い合わせ先一覧

### 危機管理局

危機管理課	042-769-8208
緊急対策課	042-707-7044

### 各区役所地域振興課

緑区役所地域振興課	042-775-8801
中央区役所地域振興課	042-769-9801
南区役所地域振興課	042-749-2135

### 各まちづくりセンター

橋本まちづくりセンター	042-703-0354
大沢まちづくりセンター	042-761-2610
城山まちづくりセンター	042-783-8117
津久井まちづくりセンター	042-780-1403
相模湖まちづくりセンター	042-684-3212
藤野まちづくりセンター	042-687-2117
中央6地区まちづくりセンター	042-707-7049
大野北まちづくりセンター	042-752-2023
田名まちづくりセンター	042-761-0056
上溝まちづくりセンター	042-762-0079
大野南まちづくりセンター	042-749-2217
大野中まちづくりセンター	042-741-6695
新磯まちづくりセンター	046-251-0014
相模台まちづくりセンター	042-744-1609
相武台まちづくりセンター	046-254-3755